

ヒロシマ現地学習行動で学んだ平和の大切さを伝える!



2018年10月 7日(日)、第25回ヒロシマ現地学習行動「碑めぐりガイド総括会議」を開催しました。

総括会議では、碑めぐりガイドを担った仲間から「平和とは当たり前前の生活が出来ること」や「自らが伝えたいことと相手に伝わることの違いと難しさがあった」、「知らないことを知ることが出来る反面、知ろうとする己にならなくてはいけない」等感想が出され、担ったことで価値観が明確になったことや今後の平和運動を担う決意が語られました。

また議論のなかで、多くの仲間の脱退を生み出してしまったことに対して、「会社からの不当労働行為は止まっていない。一旦取り下げた労働委員会への救済申し立ての再申請をして外部にアピールすべき」「取り下げたものを再申請したら、職場に新たな歪みがうまれる」「取り下げたことには根拠がある。なぜ取り下げたのか事実を把握しているのか?」との発言がありました。不当労働行為の救済申し立てを取り下げた根拠が正しく伝わっていないことや本部職場討議資料「18春闘の事実を把握し、何が真実か見極めよう」が読まれていない現実が出されました。改めて職場討議資料の活用と秋のたたかいを推し進めていくことを意思統一しました!

平和な社会の実現に向けて、青年部から行動しよう!